

## 乱雑な視覚パターンは後頭側頭部の事象関連電位の応答を賦活する（研究の進捗発表）

著者	畑中 麻希, 宮城 拓弥, 吉岡 大貴, 金長 幸希, 藤村 颯, 黒田 剛士, 山田 祐樹, 竹内 成生, 宮崎 真
雑誌名	発表予稿集 : 情報学シンポジウム
巻	2018
ページ	43
発行年	2018-12-22
出版者	情報学シンポジウム2018実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00026637">http://hdl.handle.net/10297/00026637</a>

## 乱雑な視覚パターンは後頭側頭部の事象関連電位の応答を賦活する

畑中麻希（情報科学科），宮城拓弥，吉岡大貴，金長幸希（情報学専攻），藤村颯（情報社会学科），黒田剛士（情報科学科），山田祐樹（九州大学基幹教育院），竹内成生（上武大学ビジネス情報学部），宮崎真（学術院情報学領域）

視覚パターンの乱雑さの知覚には陰性残効が生じる（Yamada et al. 2013, Sci Rep）．その残効の心理物理学特性から，外側後頭複合体（LOC）が視覚パターンの乱雑さの処理を担っていることが予見され，機能的磁気共鳴画像を用いた実験により，その仮説が支持されている（山田ら．2014，日本神経科学大会）．本研究では，視覚パターンの乱雑さ判断を行う実験参加者の脳活動を脳波計測により調べ，特にLOCの活動を反映すると考えられる電極（P07，P08）の事象関連電位に着目した．その結果，潜時200ms付近を頂点振幅とする陽性成分において，乱雑度が低い視覚パターンが呈示された場合と比べ，乱雑度が高い視覚パターンを呈示された場合で有意に大きな振幅が認められた．また，P07に比べてP08の方がその活動差が大きく，右優位性が示された．

### <既発表情報>

畑中麻希，宮城拓弥，吉岡大貴，金長幸希，藤村颯，黒田剛士，山田祐樹，竹内成生，宮崎真，“視覚パターンの乱雑さ判断における側頭後頭部の神経生理学的応答：事象関連電位による研究”，第16回情報学ワークショップ，p. 24，2018年11月10日．（ポスター発表）